

栗原の稲作通信

令和8年 第2号 令和8年6月18日発行

宮城県栗原農業改良普及センター
宮城県米づくり推進栗原地方本部
電話番号 0228-22-9404

○今後の栽培管理のポイント

1. 間断かん水を基本とし、茎数が少ないほ場では浅水管理で分けつの発生を促しましょう。
2. 藻類が発生しているほ場では、浅水管理による抑制や除草剤による防除に努めましょう。
3. いもち病の早期発見、早期防除に努めましょう。

1. 気象経過

○4月から6月上旬までの気温は平年並みからやや高く推移しました。また、降水量が平年に比べて多くなりました。日照時間は平年並みからやや多くなりました。

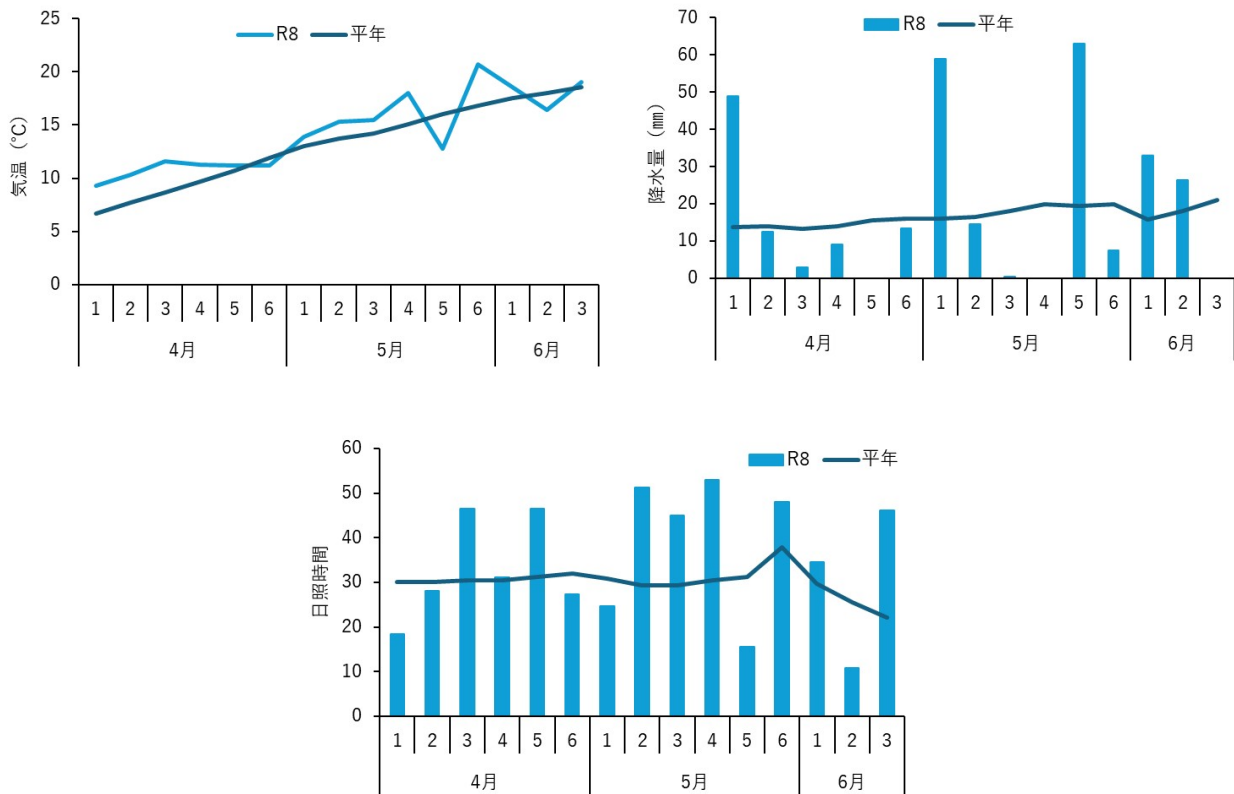


図1 4~6月の気象経過 (築館アメダス)

2. 田植え状況

○苗の生育は、一部で高温障害等が見られましたが、概ね良好でした。

○管内の田植え始期は5月10日、田植え盛期は5月17日、田植え終期は5月24日でした。

5月の連休中の強風や雨により田植えが進まなかったことから、平年に比べて遅くなったと考えられます。

3. 管内の生育状況（6月10日現在）

1) 移植水稻

○県内の「ひとめぼれ」の生育状況は、草丈は 24.9cm（平年比 104%）、茎数は 297.4 本（平年比 109%）、葉色（GM 値）は 40.6（平年差 0.2）で、草丈・茎数は平年を上回り、葉色・葉数はほぼ平年並みでした。

○管内の「ひとめぼれ」の生育状況は、若柳では、草丈は平年より短く、茎数は平年より多く、葉数・葉色は平年並みでした。一迫では、草丈はやや長く、茎数はやや少なく、葉数・葉色は平年並みでした。

表1 生育調査結果（移植水稻）

品 種	地区	田植日			草丈 (cm)			茎数 (本/m ²)			葉数 (枚)			葉色 (GM値)		
		本年	前年差	平年差	本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年差 (枚)	平年差 (枚)	本年	前年差	平年差
ひとめぼれ	若柳	5/20	1日遅	0日早	21.8	86	87	155	119	128	6.0	0.0	0.2	35.6	0.6	1.4
ひとめぼれ	一迫	5/14	1日遅	2日遅	29.1	99	107	111	150	95	5.6	0.3	-0.6	38.3	2.5	1.8
ひとめぼれ	県平均	-	-	-	26.0	91	94	181	103	101	-	-	-	37.2	-0.3	-0.5
ひとめぼれ	古試	5/11	-	-	24.9	100	104	297	92	109	6.4	-0.3	-0.1	40.6	-2.9	0.2

注1：平年値は過去3年間（令和5～7年）の平均値

注2：「ひとめぼれ 県平均」は県内各普及センター及び古川農業試験場における18地点の生育調査結果の平均

注3：地区「古試」は古川農業試験場の生育調査結果

2) 乾田直播水稻

○管内の乾田直播ひとめぼれの生育状況は、草丈は 15.7cmで前年よりやや長く、茎数は 214.6本で前年より多く、葉色（GM 値）は 33.2で前年と同程度でした。

4. 今後の管理のポイント

1) 間断かん水を基本とし、茎数が少ないほ場では浅水管理で分げつの発生を促しましょう。

○中干しまでは間断かん水を基本とし、分げつ数が少ない場合や移植が遅い場合は、浅水管理（水深2～3cm）により分げつの発生を促しましょう。

○中干しは、目標茎数の確保を確認してから行いましょう（表2）。

○中干しの期間は7～10日間とし、遅くとも幼穂形成期（ひとめぼれで7月第2半旬頃）の前には終了します。中干しの程度は、田面に小さな亀裂が入り、軽く足跡がつく程度です。

※有機物を多めに施用している場合は、硫化水素などのイネに有害なガスが発生しやすいので、溝切りや落水によるガス抜きを行いましょう。

表2 品種別の目標茎数（穂数）の目安

品種	m ² 当たり目標茎数 (本/m ²)	1株当たり目標茎数 (本/株)		
		50株植え	60株植え	70株植え
ひとめぼれ	410～460	27～30	23～25	19～22
ササニシキ	480～510	32～34	26～28	23～24
つや姫	400～440	26～29	22～24	19～21

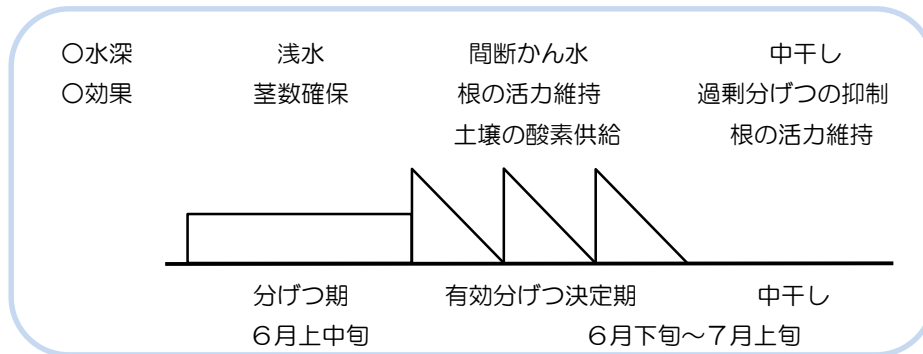


図2 今後の水管理体系

2) いもち病の早期発見、早期防除に努めましょう。

- 補植用苗（残苗）は本田でのいもち病発生の原因になります。ほ場に放置している残苗は速やかに処分しましょう。
- 葉いもち感染好適条件は出現していませんが、今後の天候の推移に注意しましょう。
「BLASTAM： <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/blastam.html>」

3) 藻類の発生が多くみられています

- 例年に比べて藻類の発生が多くなっています。稲の初期生育や雑草防除に悪影響を及ぼす可能性もあるため、適切な水管理や薬剤処理を行いましょう。
- 浅水管理：藻類が水面に広がり始めたら、浅水管理に努めましょう。
- 除草剤の使用：藻類に効果のある除草剤の使用も検討しましょう。使用にあたっては注意事項に留意します。



写真1 藻類に倒された稲

◎お知らせ！

■農薬危害防止運動実施中 実施期間 6月1日～8月31日

農薬の使用に当たっては、必ずラベルに記載された適用病害虫、使用方法、最終有効年限等を確認して、定められた方法を厳守しましょう。

最新の農薬登録情報は、農林水産消費安全技術センターのホームページで確認することができます。